

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 7 月 29 日現在

機関番号：32698

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17H02276

研究課題名(和文) 古典教父研究の現代的意義 分裂から相生へ

研究課題名(英文) Patristic Thoughts and Con-viviality in Our Time

研究代表者

宮本 久雄 (Miyamoto, Hisao)

東京純心大学・看護学部・教授

研究者番号：50157682

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、キリスト教の教えの基礎を作った教父たちの思想を、「相生かし、相生かされ、相生く」を意味する「相生(そうせい)」を鍵語として、その後代への影響も含めて分析することによって、分裂状態にある現代世界にも資する視座を提供した。ニュッサのグレゴリオス、アウグスティヌス、カッシアヌス、ディオニシオス、トマス・アクィナス、バルヘブラエウス、グレゴリオス・パラマスといった思想家たちのテクストからは、当時の民族的・宗教的・文化的な分裂とその克服に向けた銘々の思索と実践が浮かび上がり、それらを思想・典礼・芸術の各方面から多面的に分析することで、現代にも適用されうる様々な相生のあり方が見いだされた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、我が国の教父研究における第一人者たちが「相生」を共通テーマとして連携協力して研究することによって、これまで個別研究の枠組みを超え、今日における教父研究の全体像を浮き彫りとすることが可能となった。また、教父たちの示した「相生」のヴィジョンが、分裂状態にある現代世界においていかなる意義を持つかを明らかにし、今後のキリスト教研究の基盤となる総合的な視座を提示した。さらに、外国人研究者の招聘や国際シンポジウムの開催によって、教父思想の国際的研究協力関係を構築・強化すると同時に、欧文論集を含む三冊の論集の刊行により、これらの成果を隣接諸分野およびより広く世間へと還元した。

研究成果の概要(英文)：In this project we conducted collaborative research on the concept of Con-viviality which appears in the texts of Church Fathers and their successors, such as Gregory of Nyssa, Augustin, Cassian, Dionysius, Thomas Aquinas, Barhebraeus, and Palamas. By analyzing their texts from philosophical, historical and liturgical points of view, their message for Con-viviality became clearer and more vivid and urges a change in the world divided by intolerance and conflicts. In 2017, we held a symposium and published the fruit of it under the title of CHARITY AND CON-VIVIALITY. This was followed in 2018 by two symposia entitled Women in Christianity, during which we had Prof. V. Kontouma as our guest speaker, and we published the papers in a book entitled CONTRIBUTION OF WOMEN TO CON-VIVIALITY. Lastly, in 2019, we held two successive symposia on Representations of Con-viviality in Medieval Christianity, which resulted in the publication of CON-VIVIALITY REALIZED BY THE BEAUTY OF FORM AND SOPHIA.

研究分野：教父哲学

キーワード：宗教学 キリスト教 教父 相生 共生

## 1. 研究開始当初の背景

本研究の代表者である宮本久雄は、教父研究会の前会長であり、我が国における教父研究の中心を長年にわたり担ってきたと自負している。『教父と愛智』(新世社、1990年)において教父哲学に関する我が国唯一の通史を著すとともに、西方ラテン教父の代表者であるアウグスティヌスや東方ギリシア教父の代表者であるニュッサのグレゴリオスについての数多くの論考を発表してきた。そのさい、古典のテキストに対する綿密な読解に基づきつつも狭義の古典研究に閉塞せず、現代思想(エマニュエル・レヴィナス、ジャン＝リュック・マリオン、ポール・リクールなど)との対話の中で、教父のテキストの現代的意義を、多くの読者に伝わる仕方で浮き彫りにしてきた。だが、数百年にわたり活動し、ギリシア語、ラテン語、シリア語など多くの言語で展開した教父哲学の全体像とその現代的意義を明らかにする作業は、到底一人の研究者によって達成されるものではない。それゆえ、教父研究会現会長の出村和彦をはじめとした我が国教父研究の総力を結集し、教父研究者同士のあいだでこれまでの研究成果をあらためて共有しながら体系的な教父像を再構築するとともに、その現代的意義を多面的に明らかにするための研究課題を実現する必要性へと思いついた。

「相生(そうせい)」とは、「相生かし、相生かされ、相生く」という意味で、並立的な共存を意味する「共生」より深い絆を意味する概念として宮本が彫琢してきた概念である。坂口ふみが『<個>の誕生：キリスト教教理をつくった人びと』(1996年)において明らかにしたように、教父達によって形成された三位一体論やキリスト論という教義は、キリスト教という一宗教の特殊な教えに尽きるのではなく、「個人」や「人格(ペルソナ)」というものを捉え直すための根源的な起爆力を有するものであった。父と子と聖霊という神の三つのペルソナが区別されつつも切り離すことのできない深い関わりの中に存在しているという三位一体論を人間論に応用すると、一人一人の人格が自立しつつも深い相互的関わりへと開かれ、深い関わりのうちにおいてこそ自立するための力を与えられるという根源的なヴィジョンが拓かれてくる。「相生」はまさにこのような深い相互関係を捉えるための概念にほかならない。

坂口の書物は刺激的な視座を提供するものではあるが、エッセイ的な文体で書かれており、厳密な学問的裏付けに欠けるうらみがあった。また、取り上げられているのはごく一部の教父に過ぎず、現代的意義に焦点を当てた教父哲学の全体像を明らかにするには程遠い。反対に、欧米においては、教父学を初めて体系化した J. Quasten による古典的名著 *Patrology* (1950) から近年の H. Drobner, *Lehrbuch der Patrologie* (2004) に至るまで、教父学についての包括的な研究書が多数存在しているが、これらの書物の殆どは、様々な教父についての年代順の概説や、説教・聖書注解・護教論といった執筆形式に基づいた教父思想の分類と文献学的な研究状況の整理に留まっており、相生といった明確な思想的切り口に基づいた現代的意義の分析は未だ萌芽状態に留まっていた。

このような研究状況を背景とし、本研究は、教父思想の総体的把握と現代的意義の闡明を兼ね備えた研究を行うことをめざして開始された。

## 2. 研究の目的

民族的・宗教的・文化的に様々な衝突・分裂が生じている現代において、教父とその影響下にある思想家が結実させた相生の為の知恵を研究し、現代に生かすことが本研究課題の中心であった。

また、キリスト教以前に成立したギリシア哲学の遺産と、ヘブライ思想を背景とした聖書の思想を統合しつつ、新たな思想を形作り、キリスト教の教えの基礎を形作った教父たちについての研究(教父研究)に関し、すでに我が国においては、欧米諸国にも引けを取らないほどの優れたモノグラフが多数刊行されているが、本研究では、それらの成果を統合して教父研究の全体像を浮き彫りにすることを目的とした。さらに、その成果を、古代ギリシア哲学・中世スコラ哲学・ロシア宗教思想・現代宗教哲学といった隣接諸分野へと還元することによって、一部の専門家に閉ざされてきた教父研究をより広い知の土俵へと解放し、現代的意義を闡明することによって、今後のキリスト教研究の基盤となる総合的な視座を提示することをめざした。

## 3. 研究の方法

本研究は、キリスト教教父の残した壮大な思想的・文化的遺産を「相生」概念を鍵として検証し、キリスト教研究の新たなアプローチの構築およびキリスト教思想の現代社会への適用方法についての示唆を得ようとするものであった。このために、相生をキーワードに教父の残したテキストを原典から深く読み直し、教父とそれに続く時代の歴史を再検証し、キリスト教の典礼や建築・美術に現れる相生の表象を分析した。

具体的には、「西方古典教父」、「東方古典教父」、「教父思想の受容と展開」、「教父思想の表象」を主として扱う四つの研究班を構成し、それぞれの対象領域についての研究を進めると同時に、研究打ち合わせ・研究会・シンポジウム等を通して研究班の間で密に意見交換を行い、教父学の全体像を再構築した。四つの研究班の構成と具体的な分析対象は以下のとおりで

ある。

【研究班】「西方古典教父」：宮本久雄、出村和彦、上村直樹

本研究班は、アウグスティヌス（354年～430年）の著作の再検証を中心的に行い、アウグスティヌスの思想にうかがえる「相生」の思想が現代においてどのような意義を持つのかを明らかにした。マニ教や新プラトン主義思想に傾倒した後にキリスト教信仰を得、カトリックにおいて「最大の教師」と呼ばれ、プロテスタントにも影響の大きいアウグスティヌスの思想的軌跡は、一個人における宗教的体験の意味について時代や地域を超えた普遍的な問いを提示すると同時に、当時の地中海世界で拮抗していた様々な思想潮流の衝突と総合を体現しており、西方古典教父時代における相生の在り方を現代的な観点から探る上で不可欠な研究対象となった。

【研究班】「東方古典教父」：宮本久雄、土橋茂樹、袴田渉、坂田奈々絵

本研究班は、ニュッサのグレゴリオス（335年～394年）および偽ディオニュシオス・アレオパギテース（5/6世紀）の著作の再検証を行った。

アウグスティヌスよりもさらに直接的に古代ギリシア哲学と向き合い、それを受容しつつもキリスト教的に超克していったニュッサのグレゴリオスが東方古典教父の伝統を代表する人物であることは言うまでもなく、本研究では、グレゴリオスの著作のうち、『魂と復活について』を主たる対象として、魂と身体の関係から「相生」を考える際の示唆を抽出した。

また、偽ディオニュシオスは、新プラトン主義思想とキリスト教思想の独自の総合を果たした思想家であるが、本研究においては、新プラトン主義思想との関係性や神秘思想に偏重しがちな偽ディオニュシオス研究においてこれまで見落とされがちであったその『教会位階論』に見られる典礼論・協働態論を明らかにすることで、キリスト教徒の典礼を介した具体的な「相生」の姿を提示した。

【研究班】「教父思想の受容と展開」：宮本久雄、桑原直己、山本芳久、袴田玲、高橋英海

本研究班では、古典期の教父思想の中世における受容と展開を分析するため、ほぼ同時代（13-14世紀）のキリスト教世界を生きたトマス・アクィナス（1225年～1274年）、グレゴリオス・パラマス（1296年～1357年）、バルヘブラエウス（1225/6年～1286年）という西方、東方、シリアにおける代表的思想家を取り上げた。

トマス・アクィナスとグレゴリオス・パラマスについては、東西キリスト教を代表する神学者としての側面のみならず、その説教テキストへの集中によって、司牧者としての彼らの側面に光を当て、その中に「相生」への道筋を見出した。

また、イブン・シーナーやガザーリー等のイスラーム思想家の影響を受けつつキリスト教作家として活躍したバルヘブラエウスについては、キリスト教とイスラーム思想の融合を鍵にイスラームの支配下においてキリスト教徒として目指した「相生」について探った。

【研究班】「教父思想の表象」：宮本久雄、坂田奈々絵、鐸木道剛

本研究班では、テキスト分析によって明らかになる「相生」の思想が、建築や美術、典礼にいかなる形で表れているかを主たる研究対象とした。

研究班の担った偽ディオニュシオス『教会位階論』のテキスト分析を共有しつつ、中・後期ビザンティン典礼の代表的解釈書であるコンスタンティノポリスのゲルマノスの『聖体礼儀について』およびニコラオス・カバシラス『聖体礼儀註解』を読解した。また、それらのテキストの中に表された相生思想の実現される場としての典礼や芸術について、海外での現地調査も含めて分析を行った。

#### 4. 研究成果

研究代表者および研究分担者が本研究課題期間中に行った70件以上の学会等発表、60件以上の学術論文・図書の刊行からも明らかとなり、本研究では、ニュッサのグレゴリオス、アウグスティヌス、カッシアヌス、ディオニュシオス、トマス・アクィナス、バルヘブラエウス、グレゴリオス・パラマスといった教父およびその影響下にある思想家たちにおける相生についての思索が極めて精力的に読解・分析され、その成果は国内の各種学会・シンポジウムや学術誌のみならず、世界各地で開催された国際学会・シンポジウムで発表され、世界的に権威のある学術誌や出版社から刊行されるなど、国境を越えて大きな影響を及ぼしている。これら研究代表者や研究分担者が行った個々の成果発表についての詳細は次項に譲ることとし、ここでは本研究期間中の成果としてとくに重要な協働研究（国内および国際）について年度毎に列挙する。

初年度は、始動の年に当たり【研究班】「西方古典教父」、【研究班】「東方古典教父」、【研究班】「教父思想の受容と展開」、【研究班】「教父思想の表象」を主として扱う四つの研究班を組織し、それぞれの対象領域についてはまずは各々の研究班において基礎となるテキストの分析を行った。すなわち、【研究班】ではアウグスティヌスの『説教』、【研究班】ではニュッサのグレゴリオスの『魂と復活について』および偽ディオニュシオス・アレオパギテースの『神名論』、『教会位階論』、【研究班】ではトマス・アクィナスの『説教集』、『ギリシア人たちの誤謬について』、グレゴリオス・パラマスの『説教集』、バルヘブラエウスの『聖所の燭台』、『エーティコン』の再検証および翻訳をそれぞれ進めた。【研究班】では【研究班】で取り組んだ偽ディオニュシオス『教会位階論』のテキスト分析を共有しつつ、後期ビザンティン典礼の代表的解釈書であるニコラオス・カバシラス『聖体礼儀註解』の読解に着手した。また、9月と11月には外部から講師を招いて研究会を開催し、古典教父研究に資する新たな知見を得るとともに、

活発な議論を行った。さらに、12月には本科研メンバーを中心として公開シンポジウム「愛について—エロース・アモル・カリタス」を開催し、その成果は論集『愛と相生—エロース・アガペー・アモル』として3月に出版した。

二年度目には、前年度組織された四つの研究班それぞれにおいて前年度の作業を継続・発展させるかたちで研究を進めた。研究の中心に据えたのは次の二点である。第一に、相生の観点から、とくにギリシア・ラテン・シリアの三つのキリスト教伝統の相互関係およびそれらとイスラームその他の異文化との関係性の解明、第二に、キリスト教的相生における女性の役割の解明である。また、これらテキスト分析に加え、多様なキリスト教典礼についての現地調査（フランス、ベルギー、英国）も実施され、「相生」のあり方についての多面的な調査が行われた。さらに、当該年度はフランスから教父・ビザンツ研究の第一人者である Vassa Kontouma 高等研究院 (EPHE) 教授を招聘し、ギリシア教父思想と相生をテーマにした講演会 *Inclusion, exclusion, and ways of religious coexistence in the era of John of Damascus (7th-8th Centuries CE)* (於：東京大学) およびキリスト教における女性と相生をテーマにした二つのシンポジウム *Women and Con-vivality in the Eastern Christianit* (於：上智大学) および *Women in Christianity* (於：岡山大学) が開催され、その成果は欧文論集 *Contribution of Women to Con-vivality: In/Ad Spiration to Convivials* として出版された。

最終年度においては、テキスト分析に主軸を置く【研究班 〃、 〃】は、現代における相生の問題との連関を中心に、これまでの研究の成果をそれぞれ統合し、年度中に3回開催された教父研究会をはじめとする各種研究会・学会・シンポジウムにおいてそれぞれの研究成果を共有・発信した。その中には、英国で開催された第18回 *International Conference on Patristic Studies* やカザフスタンで開催された第6回 *Salzburg International Conference* をはじめとする国際学会での口頭発表や、国際学術誌上での英語・フランス語・スペイン語による論文発表も含まれ、本研究班の国際的な発信力を示すものとなった。また、教父思想の表象の分析に主軸を置く【研究班 〃】は、連続シンポジウム「中世における光とカタチ」を開催した。2019年11月17日および11月30日に開催された本連続シンポジウムでは、本科研代表者・分担者に加え、本科研研究協力者の鐸木道剛氏（東北学院大学）や、外部から阿部善彦氏（立教大学）、金沢百枝氏（東海大学）、高野禎子氏（清泉女子大学）、樋笠勝士氏（岡山県立大学）を招き、提題と議論が行われた。その成果は『光とカタチ 中世における美と知恵の相生』と題されて教友社より出版され、広く世間に還元されている。

このように、本科研の中で、相生という一つの思想的切り口にに基づき、個々の研究者が教父とその後代の思想を精緻に分析し、同時に、研究者同士の緊密な協力と毎年度精力的に行ったシンポジウムや論集の刊行を通じて、教父研究の統合的全体像を見通すことが可能となった。また、それぞれの思想家が置かれていた当時の民族的・宗教的・文化的な衝突や分裂を丁寧に取り上げ、その克服に向けた銘々の思索と実践を思想・典礼・芸術の各方面から多面的に分析することで、現代のわれわれが置かれている 〃 やはりそれぞれに多様な 〃 分裂状態の打破に向けた知恵を抽出することができたと自負している。そして、その成果を閉ざされた専門家の中でのみ共有するのではなく、隣接領域やより広く世間に還元するため、本科研主催のすべてのシンポジウム・講演会は無料で公開され、さらに、上記の通り、欧文論集を含む三冊の論集として刊行されたことも付記しておく。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計40件（うち査読付論文 13件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 土橋茂樹	4. 巻 71巻(839号)
2. 論文標題 洞窟の比喻と神に似ること	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 百門	6. 最初と最後の頁 42-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑原直己	4. 巻 44
2. 論文標題 トマス・アクィナスにおける「枢要徳」について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 哲学・思想論集	6. 最初と最後の頁 19-35(横書き部)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑原直己	4. 巻 3号
2. 論文標題 「公共の扉」 特別の教科「道徳」と高等学校公民科との接続点	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 倫理道徳教育研究	6. 最初と最後の頁 30-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Naoki Kamimura	4. 巻 64
2. 論文標題 La relacion de la identidad de los cristianos del norte de Africa con la ejercitacion espiritual, en las cartas de Agustin	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Revista Augustinus	6. 最初と最後の頁 153-172
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 袴田 渉	4. 巻 22
2. 論文標題 書評：谷隆一郎著『受肉の哲学 原初的出会いの経験から、その根拠へ』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 聖カタリナ大学キリスト教研究所紀要	6. 最初と最後の頁 55-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 袴田 玲	4. 巻 61号
2. 論文標題 トマス・アクィナス『説教18「地は芽生えさせよ (Germinet Terra)」』におけるマリアの原罪についての理解とその可能性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中世思想研究	6. 最初と最後の頁 68-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 袴田 玲	4. 巻 23号
2. 論文標題 ヘシュカスムにおける涙の位置づけ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 パトリスティカ 教父研究	6. 最初と最後の頁 90-109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂田奈々絵	4. 巻 23
2. 論文標題 カッシアヌスにおける祈りと涙	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 パトリスティカ 教父研究	6. 最初と最後の頁 68-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂田奈々絵	4. 巻 35
2. 論文標題 ゴシックの光とシュジェールの光：サン・ドニはなぜ「輝いた」のか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東北学院大学キリスト教文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 75-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮本久雄	4. 巻 60
2. 論文標題 木の実の誘惑と根源悪 「創世記」と「告白」の物語りに拠る	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中世思想研究	6. 最初と最後の頁 86-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 土橋茂樹	4. 巻 17
2. 論文標題 「ある」を表示する「名の正しさ」をめぐって - プラトン『クラテュロス』篇解釈史を手がかりに - (シンポジウム提題: 「ある」ことをめぐって - 教父哲学とスコラ哲学)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 新プラトン主義研究	6. 最初と最後の頁 3-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 土橋茂樹	4. 巻 70/6
2. 論文標題 我々はどこから来たのか	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 百門	6. 最初と最後の頁 29-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 土橋茂樹	4. 巻 48
2. 論文標題 善く生きることの意味と成立根拠を問う	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 エイコーン 東方キリスト教研究	6. 最初と最後の頁 53-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑原直己	4. 巻 44
2. 論文標題 神の世界内在と恩恵 トマス・アクィナス恩恵論の全体像	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 哲学・思想論集	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑原直己	4. 巻 35
2. 論文標題 イエズス会人文主義教育と女子教育修道会 聖心会を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 倫理学	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 出村和彦	4. 巻 22
2. 論文標題 教父研究と古代キリスト教文化	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 パトリスティカ 教父研究	6. 最初と最後の頁 3-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 Naoki KAMIMURA	4. 巻 6
2. 論文標題 On the Japanese Society for Patristic Studies and the Patristica	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Patristica, supplementary volume	6. 最初と最後の頁 43-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hidemi TAKAHASHI	4. 巻 -
2. 論文標題 Syriac Christianity in China	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Syriac World	6. 最初と最後の頁 625-652
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本芳久	4. 巻 701
2. 論文標題 トマス・アクィナスの聖書註解：著作群におけるその位置づけ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 理想	6. 最初と最後の頁 28-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 袴田渉	4. 巻 19
2. 論文標題 『神との類似』について ディオニュシオスのaphomiosis概念	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 新プラトン主義研究	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 袴田 渉	4. 巻 41
2. 論文標題 ディオニシオスの復活論	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ノートルダム清心女子大学キリスト教文化研究所年報	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 袴田 玲	4. 巻 48
2. 論文標題 三一的存在としての人間 - グレゴリオス・パラマス「第60講話」における「神の像」理解	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 エイコーン 東方キリスト教研究	6. 最初と最後の頁 3-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 袴田 玲	4. 巻 60
2. 論文標題 (書評論文) 大森正樹著『観想の文法と言語 東方キリスト教における神体験の記述と語り』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中世思想研究	6. 最初と最後の頁 144-152
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂田奈々絵	4. 巻 27
2. 論文標題 シュジェール『ルイ六世伝』の古典引用に関する一考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 清泉女子大学キリスト教文化研究所年報	6. 最初と最後の頁 41-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂田奈々絵	4. 巻 36
2. 論文標題 日本における聖地受容に関する一断面：ルルドを中心として	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 清泉文苑	6. 最初と最後の頁 94-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂田奈々絵	4. 巻 40
2. 論文標題 クレルヴォーのベルナルドゥスにおける「霊的感觉」試論	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 清泉女子大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 64-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 土橋茂樹	4. 巻 4
2. 論文標題 自己投企と受容 - 東方教父起源の「神との合一」概念のトマスの再生	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Nyx (ニユクス)	6. 最初と最後の頁 44-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 土橋茂樹	4. 巻 47
2. 論文標題 谷寿美著『ソロヴィヨフ - 生の変容を求めて - 』（司会報告）	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 エイコーン（東方キリスト教学会編）	6. 最初と最後の頁 3-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 土橋茂樹	4. 巻 91-3(390号)
2. 論文標題 土井健司著『救貧看護とフィランスロピア - 古代キリスト教におけるフィランスロピア論の生成 - 』	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 宗教研究(日本宗教学会編)	6. 最初と最後の頁 157-163
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 土橋茂樹	4. 巻 69-6
2. 論文標題 映画『沈黙』を観て	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 白門(中央大学通信教育部編)	6. 最初と最後の頁 50-56
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑原直己	4. 巻 8
2. 論文標題 東ティモールにおけるイエズス会教育 聖イグナチオ・デ・ロヨラ学院と聖ジョアン・デ・プリトール学院	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本カトリック神学院紀要	6. 最初と最後の頁 153 - 182
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑原直己	4. 巻 1
2. 論文標題 「主体的・対話的で深い学び」と「単元」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本倫理道德教育学会編『倫理道德教育研究』創刊号	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑原直己	4. 巻 43
2. 論文標題 第二バチカン公会議とイエズス会 社会正義の問題を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 筑波大学哲学・思想専攻 『哲学・思想論集』	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑原直己	4. 巻 34
2. 論文標題 適応主義の源泉としてのイエズス会修辞学教育	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 筑波大学倫理学研究会編 『倫理学』	6. 最初と最後の頁 1 21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hidemi Takahashi & Naohide Yaguchi	4. 巻 15
2. 論文標題 On the Medical Works of Barhebraeus: With a Description of the Abridgement of Hunain's Medical Questions	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Aramaic Studies	6. 最初と最後の頁 252-276
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1163/17455227-01501005	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本芳久	4. 巻 4
2. 論文標題 稲垣良典・山本芳久対談 スコラ哲学からの挑戦	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Nyx (ニユクス)	6. 最初と最後の頁 10-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本芳久	4. 巻 4
2. 論文標題 三一大神教と中世哲学：超越と理性	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Nyx（ニユクス）	6. 最初と最後の頁 62-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本芳久	4. 巻 4
2. 論文標題 マッキンタイアの「トマスの実在論」：哲学探究の基本構造	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Nyx（ニユクス）	6. 最初と最後の頁 156-167
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本芳久	4. 巻 21
2. 論文標題 マクシモス、ディオニュシオス、トマス・アキナス：谷隆一郎訳註『難問集』との対話	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教父研究会編『パトリスティカ』	6. 最初と最後の頁 90-107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 袴田渉	4. 巻 11
2. 論文標題 田島照久・阿部善彦編『テオーシス - 東方・西方教会における人間神化思想の伝統 - 』について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 カトリック文化カトリコス	6. 最初と最後の頁 75-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計71件（うち招待講演 21件 / うち国際学会 25件）

1. 発表者名 宮本久雄
2. 発表標題 シンポジウム「中世における光とカタチ」（基調講演）
3. 学会等名 本科研主催連続シンポジウム「中世における光とカタチ」（松山編）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 土橋茂樹
2. 発表標題 「枢要徳」概念の源泉と変容（シンポジウム特別報告）
3. 学会等名 第68回中世哲学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 桑原直己
2. 発表標題 宣教戦略としての適応主義 キリシタン時代の日本を中心に
3. 学会等名 日本カトリック神学会第31回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 桑原直己
2. 発表標題 『「公共の扉」をひらく授業事例集』に基づいた授業実践とその評価（提題）
3. 学会等名 第70回日本倫理学会ワークショップ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 桑原直己
2. 発表標題 「公共の扉」 特別の教科「道徳」と高等学校公民科との接続点（公開シンポジウム）
3. 学会等名 第4回日本倫理道徳教育学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 出村和彦
2. 発表標題 アウグスティヌスにおける魂の起源と「心」
3. 学会等名 第43回東京都立大学哲学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 出村和彦
2. 発表標題 アウグスティヌスにおける 魂の起源と罪（悪）の根源
3. 学会等名 第260回京都大学中世哲学研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Naoki Kamimura
2. 発表標題 Augustine and the Guidance of Souls
3. 学会等名 XVIII. International Conference on Patristic Studies（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 Naoki Kamimura
2. 発表標題 Jerusalem in Augustine ' s Sermones ad populum: Its Textual Dimensions to the Construction of Christina Identity
3. 学会等名 The Philosophy of Early Christianity in the Era of Digitalisation (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hidemi Takahashi
2. 発表標題 Syriac Fragments from Turfan at Ryukoku University, Kyoto
3. 学会等名 6th Salzburg International Conference: Syriac Christianity in China and Central Asia (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hidemi Takahashi
2. 発表標題 The Role of Syriac in the Propagation and Transmission of Knowledge within and beyond the Borders of the Roman Empire
3. 学会等名 論壇羅馬帝国与東西方文明 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋英海
2. 発表標題 中央アジアのキリスト教 シリア語研究の視点から
3. 学会等名 2019年度シルクロード学研究会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 袴田 渉
2. 発表標題 ディオニシオスの象徴神学
3. 学会等名 本科研主催連続シンポジウム「中世における光とカタチ」（松山編）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 袴田 渉
2. 発表標題 神が人を「神にすること」について ギリシア教父の神化思想
3. 学会等名 2019年度第2回聖カタリナ大学キリスト教研究所フォーラム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 袴田 玲
2. 発表標題 聖母の死（生神女就寝）をめぐるビザンツ正教における理解 グレゴリオス・パラマスの説教から
3. 学会等名 異文化理解と多文化共生 神秘主義思想とその実践を通じたイスラ ムとキリスト教の共生を探って（龍谷大学国際社会文化研究所指定研究）2019年度第1回研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂田 奈々絵
2. 発表標題 宝石と神の家：12世紀における終末表象の一側面
3. 学会等名 本科研主催連続シンポジウム「中世における光とカタチ」（松山編）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂田奈々絵
2. 発表標題 神の住まいへと建てられる：中世における教会改築・修復と信仰
3. 学会等名 シンポジウム「パリ・ノートルダム大聖堂の再生へ向けて 歴史／信仰／空間から考える」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮本久雄
2. 発表標題 マザー・テレサの生涯とその霊性
3. 学会等名 ノートルダム清心女子大学生涯学習センター（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 桑原直己
2. 発表標題 東方キリスト教の伝統とトマス・アキナスにおけるキリスト論
3. 学会等名 第 18 回東方キリスト教会大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 桑原直己
2. 発表標題 世界肯定の神学としてのトマス・アキナス恩恵論
3. 学会等名 日本カトリック神学会第30回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 桑原直己
2. 発表標題 「道德」を内包する「宗教」
3. 学会等名 第1回聖心女子大学宗教科教育研究会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 桑原直己
2. 発表標題 倫理学における「共同体論」
3. 学会等名 オリエンズ・セミナー第103回
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuhiko DEMURA
2. 発表標題 Health Systems in Augustine: Poverty, Illness and Old Age as a Human Condition
3. 学会等名 Asia-Pacific Early Christian Studies Society 12th Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Naoki KAMIMURA
2. 発表標題 Augustine and the Quest for “peace” in the Communities of Roman North Africa
3. 学会等名 North American Patristic Society Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Naoki KAMIMURA
2. 発表標題 Tertullian 's Way of Approaching to Medicine and the Health of Human Soul
3. 学会等名 Annual Meeting of the Canadian Society of Patristic Studies ( 国際学会 )
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Naoki KAMIMURA
2. 発表標題 North African Way of Approaching to Medical Healing and the " Plague of Cyprian "
3. 学会等名 Asia-Pacific Early Christian Studies Society 12th Annual Conference ( 国際学会 )
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hidemi TAKAHASHI
2. 発表標題 On Some Recent Discoveries (and Rediscoveries) Relating to Syriac Christianity in China
3. 学会等名 Second International Conference of Aramaic and Syriac Studies in Egypt and the World ( 国際学会 )
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hidemi TAKAHASHI
2. 発表標題 Barhebraeus comme philosophe : " la philosophie de Barhebraeus " ou " les oeuvres philosophiques de Barhebraeus " ?
3. 学会等名 16e Table ronde internationale de la Societe d ' etudes syriaques : la philosophie en syriaque, Societe d ' etudes syriaques ( 招待講演 ) ( 国際学会 )
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hidemi TAKAHASHI
2. 発表標題 Barhebraeus and the Church of the East
3. 学会等名 Syriac Christianity at the Crossroads of Cultures: A Conference Commemorating the 700th Anniversary of “ Abdisho ” of Nisibis (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hidemi TAKAHASHI
2. 発表標題 The Chinese Manichaeen Prayer of St. George and Other Traces of the Descendants of Syriac Christians in China
3. 学会等名 9th World Syriac Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hidemi TAKAHASHI
2. 発表標題 Topics in Science in Syriac Transmission
3. 学会等名 Workshop: Late Antique Science and Religion, Department of Religion (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 袴田 渉
2. 発表標題 「ディオニュシオスの聖書解釈」
3. 学会等名 同志社大学一神教学際研究センター研究会「ユダヤ教の諸相とその周辺」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 袴田 渉
2. 発表標題 『神との類似』について デイオニュシオスのaphomiosis概念
3. 学会等名 第25回新プラトン主義協会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Wataru HAKAMADA
2. 発表標題 The Notion of the Resurrection of the Dead in Pseudo-Dionysius
3. 学会等名 Asia-Pacific Early Christian Studies Society 12th Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 袴田 玲
2. 発表標題 ヘシュカストと涙
3. 学会等名 第167回教父研究会例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 袴田 玲
2. 発表標題 トマス・アクィナス『説教18「地は芽生えさせよ (Germinet Terra)」』におけるマリアの原罪についての理解とその可能性
3. 学会等名 中世哲学会第67回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Rei HAKAMADA
2. 発表標題 Interpretations of the Dormition of the Virgin Mary in Byzantine Church
3. 学会等名 本科研主催国際シンポジウムSymposium Women and Con-viviality in the Eastern Christianity (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Rei HAKAMADA
2. 発表標題 God's Image and Likeness: John Chrysostom and Gregory of Nyssa's Views about Human Nature
3. 学会等名 Asia-Pacific Early Christian Studies Society 12th Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 袴田玲
2. 発表標題 グレゴリオス・パラマスの説教における聖母マリア理解 第37講話「マリアの就寝について」を中心に
3. 学会等名 第18回東方キリスト教学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 袴田玲
2. 発表標題 東方キリスト教における神秘主義と民衆
3. 学会等名 異文化理解と多文化共生 - 神秘主義思想とその実践を通じたイスラームとキリスト教の共生を探って (龍谷大学国際社会文化研究所指定研究) 第1回研究会
4. 発表年 2018年



1. 発表者名 坂田奈々絵
2. 発表標題 カッシアヌスにおける祈りと涙：エヴァグリオスとの比較から
3. 学会等名 第167回教父研究会例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂田奈々絵
2. 発表標題 サン・ドニのシュジェール『ルイ肥満王伝』における古典引用
3. 学会等名 清泉女子大学キリスト教文化研究所研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坂田奈々絵
2. 発表標題 シュジェールの光とゴシックの光：なぜサン・ドニは『輝いた』のか
3. 学会等名 東北学院大学キリスト教文化研究所 研究フォーラム2018（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坂田奈々絵
2. 発表標題 西方キリスト教における「感覚」を巡る問い：クレルヴォーのベルナルドゥスを中心に
3. 学会等名 清泉女子大学人文科学研究所研究懇話会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宮本久雄
2. 発表標題 木の実の誘惑 - 創世記と告白 -
3. 学会等名 中世哲学会 第66回 総会・大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 土橋茂樹
2. 発表標題 愛の矢と愛の痛手 - オリゲネスとニュッサのグレゴリオス双方の「雅歌」解釈をめぐって (シンポジウム提題)
3. 学会等名 第162回教父研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 土橋茂樹
2. 発表標題 善く生きるこの意味と成立根拠を問う (シンポジウム提題)
3. 学会等名 第17回東方キリスト教学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 土橋茂樹
2. 発表標題 違和と不在の顕在化に向けてー主に中世哲学に関わる神崎さんのお仕事をめぐって
3. 学会等名 神崎繁先生を偲ぶ会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 桑原直己
2. 発表標題 現代社会とイエズス会 第二パチカン公会議とその前後
3. 学会等名 カトリック神学会第29回学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 桑原直己
2. 発表標題 The Jesuits and Japanese Buddhism in the Sixteenth and Seventeenth Centuries
3. 学会等名 3rd Annual Conference of the European Network of Japanese Philosophy ENOJP, Institut national des langues et civilisations orientales (Inalco), Paris (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 桑原直己
2. 発表標題 トマス・アキナス倫理学の現代的意味
3. 学会等名 西日本哲学会 シンポジウム提題(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 桑原直己
2. 発表標題 適応主義の源泉としてのイエズス会修辞学教育
3. 学会等名 科研費共同研究「カトリック系人文主義教育と日本」・日本カトリック教育学会 特別企画 共催 第五回シンポジウム提題
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 上村直樹
2. 発表標題 Tertullian 's Approach to Medicine and the Care of Souls
3. 学会等名 North American Patristic Society 2017 Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Naoki Kamimura
2. 発表標題 Tertullian 's Understanding of Sacred Places and the Differentiation of Christians from Pagans
3. 学会等名 Asia Pacific Early Christian Studies Society 11th Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Naoki Kamimura
2. 発表標題 Constructing the Sacred in Late Antiquity: Jerome as a Guide for Christian Identity
3. 学会等名 39th Australasian Society for Classical Studies Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hidemi Takahashi
2. 発表標題 Survival of Christianity in China: Remarks on Some Recent Discoveries
3. 学会等名 Symposium: Minorities in the Middle East (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hidemi Takahashi
2. 発表標題 On Some Syriac Scribes and Scholars of the Early Modern Period: Readers and Copyists of Barhabraeus' Works
3. 学会等名 Workshop: Syriac and Its Users in the Early Modern World c. 1500-1750 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hidemi Takahashi
2. 発表標題 What the Recent Finds Tell Us about the Practice of Faith among the Syriac-Rite Christians in China
3. 学会等名 基督宗教研究論壇(二零一七)、景教研究國際論壇:景教徒在華生活与信仰实践(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hidemi Takahashi
2. 発表標題 Syriac Christianity in Tang and Yuan China: Remarks on Some Recent Discoveries
3. 学会等名 北京大学國際漢学家研修基地國際漢学系列講座第九十二講(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hidemi Takahashi
2. 発表標題 Syriac Christianity East of the Pamirs: On Some New Finds and Their Significance for the Understanding of Eurasian Christianity
3. 学会等名 International Conference "Georgia-Byzantium-Christian East" (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高橋英海
2. 発表標題 シリア・イラクのキリスト教徒の移動の歴史
3. 学会等名 講演会「シリア・イラク情勢と移民のいま」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hidemi Takahashi
2. 発表標題 The Attitude of Barhebraeus towards Islam and Islamic Scholars
3. 学会等名 International Medieval Congress 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高橋英海
2. 発表標題 中国とその周辺におけるシリア語とシリア・キリスト教 最近の発見を中心に
3. 学会等名 第78回羽田記念館定例講演会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高橋英海
2. 発表標題 地中海から東シナ海まで 聖ゲオルギオス伝の伝承と変容
3. 学会等名 講座「地中海：神話・伝承を紡ぐ」 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山本芳久
2. 発表標題 愛と靈的再生：説教者としてのトマス・アクィナス
3. 学会等名 第162回教父研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 袴田 渉
2. 発表標題 教父と女性
3. 学会等名 シンポジウム：愛の諸相part.2 女性と共生
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 袴田 玲
2. 発表標題 三一的存在としての人間 グレゴリオス・パラマス『第六十講話』における『神の像』理解
3. 学会等名 東方キリスト教学会第17回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 袴田 玲
2. 発表標題 東方キリスト教の世界 聖山アトスと民衆
3. 学会等名 2017年度女性研究者シーズ発信会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 袴田 玲
2. 発表標題 説教から読み解く中世キリスト教世界 トマス・アキナスにおける説教の位置づけ
3. 学会等名 第18回岡山大学哲学倫理学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 袴田 玲
2. 発表標題 説教の分析から見えてくるもの トマス・アキナス説教18 Germinet Terraを例に
3. 学会等名 岡山大学文学部貧困プロジェクト2017年度第2回研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坂田 奈々絵
2. 発表標題 カッシアヌス『靈的談話集』における涙の扱い
3. 学会等名 日本宗教学会第76 回学術大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計27件

1. 著者名 宮本久雄	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 480
3. 書名 パウロの神秘論 他者との相生の地平をひらく	



1. 著者名 宮本久雄編著（共著者：坂田奈々絵、鐸木道剛、他）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 教友社	5. 総ページ数 128
3. 書名 光とカタチ 中世における美と知恵の相生	

1. 著者名 土橋茂樹	4. 発行年 2019年
2. 出版社 知泉書館	5. 総ページ数 438
3. 書名 教父と哲学 ギリシア教父哲学論集	

1. 著者名 土橋茂樹編著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 月曜社	5. 総ページ数 245
3. 書名 存在論の再検討	

1. 著者名 伊藤邦武、山内志朗、中島隆博、納富信留編（共著者：土橋茂樹、出村和彦、他）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 288
3. 書名 世界哲学史 2	

1. 著者名 神崎忠昭、野元晋編（共著者：土橋茂樹、他）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 312
3. 書名 自然を前にした人間の哲学	

1. 著者名 Bronwen Neil & Kosta Simic (Contributor: Naoki Kamimura)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 xvi+284
3. 書名 Memories of Utopia: The Revision of Histories and Landscapes in Late Antiquity / Constructing the Sacred in Late Antiquity	

1. 著者名 Emiliano Fiori & Henri Hugonnard-Roche (Contributor: Hidemi Takahashi)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Geuthner	5. 総ページ数 450
3. 書名 La philosophie en syriaque (Études syriaques 16)	

1. 著者名 伊藤邦武、山内志朗、中島隆博、納富信留編（共著者：袴田玲）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 288
3. 書名 世界哲学史 3	

1. 著者名 Jean H. MIYAMOTO, Contributors: Naoki KAMIMURA, Rei HAKAMADA	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Kyoyusha	5. 総ページ数 226
3. 書名 Contribution of Women to Con-viviality : In/Ad Spiration to Convivials	

1. 著者名 Jean H. MIYAMOTO	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ATF France	5. 総ページ数 167
3. 書名 La Resurrection de l'autre -L'exode d'Auschwitz-	

1. 著者名 宮本久雄	4. 発行年 2018年
2. 出版社 教友社	5. 総ページ数 21
3. 書名 隠れキリシタン 生月・五島から 受難に息吹く祈りの円い	

1. 著者名 土橋茂樹	4. 発行年 2019年
2. 出版社 中央大学通信教育部	5. 総ページ数 278
3. 書名 哲学	

1. 著者名 山本芳久・若松英輔	4. 発行年 2018年
2. 出版社 文芸春秋社	5. 総ページ数 320
3. 書名 キリスト教講義	

1. 著者名 宮本久雄編（共著者：宮本久雄、土橋茂樹、出村和彦、山本芳久、袴田玲）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 教友社	5. 総ページ数 201
3. 書名 愛と相生 エロース・アガペー・アモル	

1. 著者名 ：田島照久・阿部善彦編（共著者：宮本久雄、土橋茂樹、袴田渉、その他）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 教友社	5. 総ページ数 551
3. 書名 3. テオーシス 東方・西方教会における人間神化思想の伝統	

1. 著者名 山内志朗編（共著者：土橋茂樹、その他）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 273
3. 書名 光の形而上学 知ることの根源を辿って	

1. 著者名 土橋茂樹編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ヒルトップ出版	5. 総ページ数 207
3. 書名 フィロカリア 総索引	

1. 著者名 桑原直己	4. 発行年 2017年
2. 出版社 知泉書館	5. 総ページ数 196
3. 書名 キリシタン時代とイエズス会教育 アレッサンドロ・ヴァリニャーノの旅路	

1. 著者名 片倉望編（桑原直己）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 三重大学出版会	5. 総ページ数 176
3. 書名 愛の探究	

1. 著者名 出村和彦	4. 発行年 2017年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 208
3. 書名 アウグスティヌス 「心」の哲学者	

1 . 著者名 G. Partoens, A. Dupont, Sh. Boodts, and M. Lamberigts, eds. (17 Authors, including Naoki Kamimura)	4 . 発行年 2017年
2 . 出版社 Brepols	5 . 総ページ数 483
3 . 書名 Praedicatio Patrum. Studies on Preaching in Late Antique North Africa. Instrumenta Patristica et Mediaevalia 75	

1 . 著者名 Markus Vinzent, ed. (29 Authors, including Naoki Kamimura)	4 . 発行年 2017年
2 . 出版社 Peeters	5 . 総ページ数 695
3 . 書名 Studia Patristica. Vol. XCVIII - Papers presented at the Seventeenth International Conference on Patristic Studies held in Oxford 2015 Volume 24: St Augustine and his Opponents	

1 . 著者名 Hidemi Takahashi	4 . 発行年 2017年
2 . 出版社 Peeters (Louvain)	5 . 総ページ数 408
3 . 書名 Syriac in Its Multi-Cultural Context: First International Syriac Studies Symposium	

1 . 著者名 山本芳久	4 . 発行年 2017年
2 . 出版社 岩波新書	5 . 総ページ数 272
3 . 書名 トマス・アキナス 理性と神秘	

1. 著者名 東京大学教養学部編（山本芳久）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 白水社	5. 総ページ数 270
3. 書名 分断された時代を生きる（知のフィールドガイド）	

1. 著者名 安藤礼二・若松英輔編（山本芳久）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 河出書房新社	5. 総ページ数 255
3. 書名 井筒俊彦（言語の根源と哲学の発生 増補新版）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	土橋 茂樹 (TSUCHIHASHI Shigeki)  (80207399)	中央大学・文学部・教授  (32641)	
研究分担者	桑原 直巳 (KUWABARA Naoki)  (20178156)	筑波大学・人文社会系・教授  (12102)	
研究分担者	出村 和彦 (DEMURA Kazuhiko)  (30237028)	岡山大学・ヘルスシステム統合科学研究科・教授  (15301)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	上村 直樹 (KAMIMURA Naoki) (40535324)	東京学芸大学・教育学部・研究員  (12604)	
研究分担者	高橋 英海 (TAKAHASHI Hidemi) (20349228)	東京大学・大学院総合文化研究科・教授  (12601)	
研究分担者	山本 芳久 (YAMAMOTO Yoshihisa) (50375599)	東京大学・大学院総合文化研究科・准教授  (12601)	
研究分担者	袴田 渉 (HAKAMADA Wataru) (70726588)	聖カタリナ大学・人間健康福祉学部・助教  (36302)	
研究分担者	袴田 玲 (HAKAMADA Rei) (30795068)	岡山大学・社会文化科学研究科・特任助教  (15301)	
研究分担者	坂田 奈々絵 (SAKATA Nanae) (30795109)	清泉女子大学・文学部・専任講師  (32632)	
連携研究者	鐸木 道剛 (SUZUKI Michitaka) (30135925)	東北学院大学・文学部・教授  (31302)	